

はせさんず

2017 冬号 NO. 80

エヌーエス

発行 2017年11月20日 (月)
発行所 認定NPO法人たすけあい大田はせさんず
理事長 榎敷 洋子
〒146-0082 東京都大田区池上4-28-3
はせさんず (会員制) 03-5747-2610
ヘルプースデーショウ 03-5747-2816
ケアサポート 03-5747-2800
デイホーム 03-5747-2660
元氣かい 03-5747-2605
FAX専用 03-5747-2620

はせさんずは会員制のたすけあいの会です。入会随時受付！

NPOの非営利活動にご寄附ご支援をお願いします

要支援者の在宅生活支援をめぐって

大田区介護予防・日常生活支援総合事業の方向が心配！

☆新事業の考え方をこう説明している

大田区は、平成30年1月から新たな介護予防・日常生活支援総合事業（以下、新総合事業という）を開始し、同年3月には従来の予防給付相当サービスを終了すると、介護事業者向け説明会を開いたり、利用者や事業者向けの「利用ガイドブック」を配布したりしています。対象者は、要支援1、2および事業対象支援者という。

大田区では新たな考え方で、サービスを利用する高齢者が介護予防に取り組むことをポイントに挙げ、「専門職ヘルパーのサービスからの卒業をめざし、地域の支え手

全確認や転倒予防などの声かけをしながら、調理を手助けしたり、洗濯物を干したりなどの整理をヘルパーと一緒に

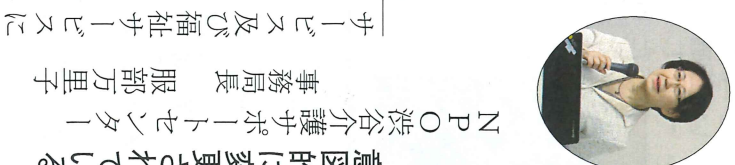
「生活力アップサポート」。これは利用者が日常生活でやりにくくなってきたことをヘルパーと一緒に取り組むこ

「要介護」がある」という認識で、事業者には「利用者がいち早く自立した日常生活にも行われていることで、これらのサービスにより高齢者の生活力を維持してきました。

「要介護」がある」という認識で、事業者には「利用者がいち早く自立した日常生活にも行われていることで、これらのサービスにより高齢者の生活力を維持してきました。

「要介護」がある」という認識で、事業者には「利用者がいち早く自立した日常生活にも行われていることで、これらのサービスにより高齢者の生活力を維持してきました。

緊急取材



介護保険の目的が「自立支援」から「要介護度改善」に意図的に変更されている

NPOはせさんず 事務局 服部万里子

介護保険の目的は「要介護度を下げ、入浴、排せつ、食事等の介護、機能訓練並びに看護及び療養上の管理その

「自立した日常生活健康サービス及び福祉サービスに係る給付」を「自立支

サービスは利用できま

言っているそうです。将来

「代行的」な

「代行的」な

「代行的」な

「代行的」な

「代行的」な

「代行的」な

「代行的」な

「代行的」な

「代行的」な

「代行的」な

「代行的」な

「代行的」な

「代行的」な

「代行的」な

「代行的」な

「代行的」な

「代行的」な

さわやかバスツアーが

はせさんずを訪問・見学
10月24日(火)、東京都主催、公益財団法人さわやか福祉財団の運営による「生活支援コミュニティ」の運営による「生活支援コミュニティ」の現
場見学会があり、千代田区や江東区など18の区市から第1層・第2層の生活支援コミュニティメンバー、区職員、東京はせさんずを訪問しました。目的は、はせさんず設立から今日までの活動の見学です。生活支援コミュニティメンバーは地域支え合い推進員ともい、高齢者の生活支援・介護予防サービスのため整備を推進していくことを目的とし、地域においてサービスの提供体制の構築(おもに資源開発

をネットワーク構築)に向け
て、第1層は市町村区域、第2層は日常生活圏域(中学校区域等)でコミュニティ機能を開発する役割を担います。
10月24日(火)、東京都主催、公益財団法人さわやか福祉財団の運営による「生活支援コミュニティ」の現
場見学会があり、千代田区や江東区など18の区市から第1層・第2層の生活支援コミュニティメンバー、区職員、東京はせさんずを訪問しました。目的は、はせさんず設立から今日までの活動の見学です。生活支援コミュニティメンバーは地域支え合い推進員ともい、高齢者の生活支援・介護予防サービスのため整備を推進していくことを目的とし、地域においてサービスの提供体制の構築(おもに資源開発



「今後の活動の参加者から、区職員、東京はせさんずを訪問しました。目的は、はせさんず設立から今日までの活動の見学です。生活支援コミュニティメンバーは地域支え合い推進員ともい、高齢者の生活支援・介護予防サービスのため整備を推進していくことを目的とし、地域においてサービスの提供体制の構築(おもに資源開発

大田区の職員研修受け入れ
今年も、8月31日から10月17日までのうちの7日間、大田区の入職2年目の職員(男女各5名)が「行政とNPOの協働体験」の研修に訪れまして、この研修は大田NPO活動団体会に加入している団体が中心となり、NPOの現場を知ってもらおうと大田区に働きかけ、7年ほど前から毎年実施しています。はせさんずのほか、12のNPO団体が引き受けています。今年、はせさんずに来た職員は保育サービス課、生活福祉課、都市基盤管理課など9課にわたるさまざまな分野の職員でした。
午前中から午後の外出まで



「今後の活動の参加者から、区職員、東京はせさんずを訪問しました。目的は、はせさんず設立から今日までの活動の見学です。生活支援コミュニティメンバーは地域支え合い推進員ともい、高齢者の生活支援・介護予防サービスのため整備を推進していくことを目的とし、地域においてサービスの提供体制の構築(おもに資源開発

ダイホーム敬老運動会

9月11日(月)・16日(土)の1週間は、「ご利用の皆様がいつもでも元気」を思い込ませて「敬老運動会」を開催。利用者、職員が一緒に、個人・団体のゲームで競いました。玉入れや風船運び、釣りのゲームなどに真剣に取り組み、例年に勝る盛り上がりとなりました。ご家族にも呼びかけて、4家族6名が参加しました。ご利用者の普段の過ごし方を見ていただけのもよかったですと思います。(新留)



「今後の活動の参加者から、区職員、東京はせさんずを訪問しました。目的は、はせさんず設立から今日までの活動の見学です。生活支援コミュニティメンバーは地域支え合い推進員ともい、高齢者の生活支援・介護予防サービスのため整備を推進していくことを目的とし、地域においてサービスの提供体制の構築(おもに資源開発

2018年版
カレンダー予約受付中
A4サイズ 1部700円
お申込は、事務局まで

ヘルパー研修会

10月28日(土)、ヘルパー研修会として、田園調布消防署で普通救命救急の講習を受けました。参加者18名。消防署の講師の指導の下、応急手当の重要性、救命処置、止血法などを学びました。講師のわかりやすい説明で3時間の講習時間を集めて学ぶことができました。サビスを行うなかで救急法を知っていることは、緊急時にも落ち着いた対応がとれることにつながると思います。ご家族にも呼びかけて、4家族6名が参加しました。ご利用者の普段の過ごし方を見ていただけのもよかったですと思います。(新留)



「今後の活動の参加者から、区職員、東京はせさんずを訪問しました。目的は、はせさんず設立から今日までの活動の見学です。生活支援コミュニティメンバーは地域支え合い推進員ともい、高齢者の生活支援・介護予防サービスのため整備を推進していくことを目的とし、地域においてサービスの提供体制の構築(おもに資源開発



「今後の活動の参加者から、区職員、東京はせさんずを訪問しました。目的は、はせさんず設立から今日までの活動の見学です。生活支援コミュニティメンバーは地域支え合い推進員ともい、高齢者の生活支援・介護予防サービスのため整備を推進していくことを目的とし、地域においてサービスの提供体制の構築(おもに資源開発

はせさんず各部門スタッフより 聞いて！ 聴いて！

元気かい
「賭けない麻雀なんておもしろくないのでは？」これが私のイメジでした。でも、参加して意識は覆されました。経験者のチームは「純チャリ三色をつもる」を目標にしている人もいます。お茶、コーヒーとお菓子の話やおやつを食べながらそれぞれに生き生きと健康麻雀を楽しんでいます。一度のぞいてください。(伊藤英子)

ダイホーム
少子高齢化や団塊世代の退職など人手不足も深刻化しており、介護業界では一層厳しい状況になっています。ダイホームではスタッフ6時間の短時間勤務を導入するなど人材確保に努めています。小さな子のいる職員の事情にも配慮し、待機児童問題に直面している若い母親世代の応募にも対応しています。多彩な働き方に対応していくことが求められています。(新留信弘)

ケアサポート
利用者は十人十色。家族といるとき、一人のとき、サービス利用中など、いろんな顔、表情があります。ケア言葉も違います。ケアマネジャーは言葉の奥にあるものを汲み取るために、なるべく多くを見て、多くを聞きますが、日々の忙しさで時間も十分割けず残念なときもあります。しかし、長い人生をがんばってこられたことへのエールは、いつでも惜しまず送りたい。せっかくのご縁を大事にしながら。(榎木昭炫)

ヘルパーステーション
入職したての頃、ある利用者が玄関を出る際にピアを背にして靴をはいている姿を見て、ピアに向けて靴をそろえるだけがベストな介護とは限らないと教えられました。更衣介助で肩の線はヘルパーが直し、利用者には鏡を見ながら襟を整えたり、鏡台をふいたりしてもらい、できることを奪わぬよう心がけています。気遣いと介護のバランスを保つことは日々挑戦。これからの利用者お一人ずつの尊厳を大切に。(生田目綾子)

会員制たすけあい活動
8月24日(木)、はせさんず1階で池上警察署交通課の協力により第22回移送活動者安全運動研修会を開催。活動会員ほか19名が参加。山口警部補の進行で、事故事例のビデオ映像による安全運動への注意喚起と、活発な質疑応答が行われた。懇親会では近況報告や日頃の移送活動について意見交換したあと、安全運転管理責任者の大澤理事から日頃の活動協力への謝意が述べられ、和やかな雰囲気でした。(吉田安男)